

《資料 2026年度町田市登録文化財候補》

石坂昌孝屋敷跡

指定種別：町田市登録旧跡

所在地：町田ぼたん園内（町田市野津田町 2293 番地－1 号～3 号）

管理者：町田市都市づくり部公園緑地課・●●●●●●（←指定管理先）

所蔵者：町田市

内容：地所

法量：1 反 5 畝 25 歩（約 1,570 m<sup>2</sup>）＝地券での記載面積

2293 番地 1 号 900（もしくは 892）m<sup>2</sup>

2293 番地 2 号 810（もしくは 826）m<sup>2</sup>

2293 番地 3 号 100（もしくは 99）m<sup>2</sup> 合計 1,810（もしくは 1,817）m<sup>2</sup>

経緯：屋敷跡地は、周辺の土地も含め一度長男公歴に家督を譲った際に相続したが、昌孝が衆議院議員出馬に向けて明治 22 年再相続するとともに、同地と屋敷を抵当にして小島守政より 1194 円を借用している。返済が滞ったまま明治 37 年に屋敷は家産整理により売却された。その後、明治 40 年昌孝の死去により、公歴と次女登志が相続し、1918(大正 7) 年に墓地への参道整備のために 3 筆に分筆された。その後、子孫により町田市に寄贈されるとともに小島家の抵当権が放棄され、現在は町田市ぼたん園内に含まれている。

現況：屋敷地として整地された平地で、現在は芝生が養生され一部にツツジ・フジ等が、東側隣接地との境にはフェンスが設けられ内側にツバキ等が植樹がなされている。石坂昌孝没後の 1918(大正 7) 年 2 月に 3 筆に分筆され、中央の 2293 番地 3 号が石坂昌孝の墓への参道として利用されたと思われるが、その痕跡は残っていない。

登録理由：石坂昌孝は、1841(天保 12) 年、多摩郡野津田村(現町田市野津田町)に生まれ、幕末に名主、明治初年より地域行政の要職を務め、1879(明治 12) 年に神奈川県会初代議長に就任している。1881(明治 14) 年に政治結社融貫社を組織、翌年に自由党に入党すると旧神奈川県下の自由民権運動の領袖的存在として活躍し、1890(明治 23) 年の第一回衆議院議員選挙で当選以来 4 回連続当選、6 年間衆議院議員を務めた。1896(明治 29) 年から翌年まで群馬県知事を務めた後に政界を引退、1907(明治 40) 年に亡くなる。1916(大正 5) 年には現八王子市富士森公園に顕彰碑「放庵石坂君碑」、1933(昭和 8) 年には現海老名市秋葉山古墳群内に石坂らを顕彰する「憲政碑」が建てられており、南多摩郡、旧神奈川県を代表する民権家・政治家として位置づけられてきたことがわかる。

屋敷地は、1878(明治 11) 年には芝生の西洋風庭園になっていたとの記録もあり、横浜からの文明開化の影響を想像させる。敷地内には、長女美那と自由民権運動に若くして影響を受け、明治 20 年代の青年に大きな影響を与えた文学論を

執筆した北村透谷との出会いとその背景にある自由民権期の青年が抱えた情熱や煩悶の歴史的意味を後世に伝えるため「自由民権の碑 透谷・美那子出会いの地」が建てられている。

同地は、近代立憲政治の基礎をつくるうえで重要な役割を果たした自由民権運動の地域指導者で、明治期に政治運動で全財産を使い果たした井戸堀政治家の典型ともいえる石坂昌孝の歴史的役割、また多摩地域や旧神奈川県域の自由民権運動の実像を考えるうえでも象徴的な場所といえる。また、地域に長く愛された石坂昌孝ゆかりの地でもあり、町田市登録旧跡にふさわしいと思われる。

## 石阪昌孝墓

指定種別：町田市登録史跡

所在地：町田市野津田町 2268 番地 2 号

管理者：野津田町内会・七国山自然を考える会（?）

土地所有名義者：北村ミナ(美那) \*1942 (昭和 17) 年 4 月 10 日没  
(相続筆頭者：堀越宏一氏)

内容：墓・地所 (1990 年設置の香台は対象外とする)

時期：1907 (明治 40) 年 5 月 (推定)

法量：竿石：[縦]約 37.5 cm × [横]約 39.5 cm × [高]約 136 cm  
上台：[縦]約 61 cm × [横]約 63.5 cm × [高]約 38.5 cm  
中台：[縦]約 90 cm × [横]約 94 cm × [高]約 39.5 cm  
芝台：[縦]約 121 cm × [横]約 125 cm × [高]約 12.5 cm  
石垣台：[縦]約 190~200 cm × [横]約 185~210 cm × [高]約 45 cm  
水鉢：[縦]約 30 cm × [横]約 47 cm × [高]約 36 cm

ただし、下部は[縦]約 27.5 cm × [横]約 40 cm

花立(右)：[直径]約 23.5~24 cm (下部直径 26~27 cm) × [高]約 44 cm

花立(左)：[直径]約 23.5~24 cm (下部直径 26~27 cm) × [高]約 45 cm

外柵石柱：[縦]約 18 cm × [横]約 18 cm × [高]約 100 cm

(ただし、右後上部 18 cm 程度の箇所折)

外柵範囲：[縦]約 300 cm × [横]約 310 cm

墓地面積：100 m<sup>2</sup>

墓碑銘：正面：「正五位石阪昌孝之墓」

右側面：「雄鎮院殿洪範道昌大居士  
淑範院蓮體妙瑩大姉 靈位」

左側面：「雄 明治四十年一月十三日歿  
淑 大正二年三月六日歿」

経緯：石阪昌孝は 1907(明治 40)年 1 月 13 日に牛込区北町の寓居で死去し、15 日同署で葬儀が行われたが、5 月 2 日故郷鶴川村野津田への埋骨という本人の遺言により華厳院で埋骨式法要が行われた。この際に当該地に埋葬されたものと推測される。1913 (大正 2) 年 3 月 6 日に昌孝妻やまが没しているが、その直後から長男公歴・次女登志が一度手放した墓石所在地周辺の土地を長女美那が再購入し分筆、5 月 27 日に墳墓地として登記変更がなされる。さらに 1918 (大正 7) 年 2 月 18 日に屋敷跡地から墳墓地の間の参道部分の分筆がされている。

現況：町田ぼたん園フェンスで寸断されているが石阪昌孝屋敷跡地から墓地まで参道が整備されている。墓地は野津田町内会（・七国山自然を考える会?）が維持管理し、墓地敷地内には町田市が建てた説明板が建っている。墓石は竿石の下に上台・中台・芝台があり最下段は石垣をコンクリートで固めた台となってお

り、石垣台上に花立・水鉢が置かれているが、同時期に作成されたものと思われる。墓石の周囲は四本の石柱で囲まれ、各石柱には石柱間を鎖でつないでいた形跡が残る（石柱一本（右後）は鎖を打ち込んだ穴部分から折れている。また、鎖は全て脊柱からは切れ、一部残っているものは石柱に卒塔婆を固定するために利用されている。正面には、1990（平成 2）年に寄贈された香台がある。

登録理由： 石阪昌孝は、1841(天保 12)年、多摩郡野津田村(現町田市野津田町)に生まれ、幕末に名主、明治初年には地域行政の要職を務め、1879(明治 12)年に神奈川県会初代議長に就任している。1881（明治 14）年に政治結社融貫社を組織、翌年自由党に入党し旧神奈川県下の自由民権運動の領袖的存在として活躍、1890（明治 23）年の第一回衆議院議員選挙で当選以来4回連続当選、6年間衆議院議員を務めた。1896（明治 29）年から翌年まで群馬県知事を務めた後に政界を引退、1907（明治 40）年に亡くなる。1916(大正 5)年には現八王子市富士森公園に顕彰碑「放庵石阪君碑」、1933(昭和 8)年には現海老名市秋葉山古墳群内に石阪らを顕彰する「憲政碑」が建てられており、南多摩郡、旧神奈川県を代表する民権家・政治家として位置づけられてきたといえる。また、野津田では「昌孝さん」との愛称で呼ばれ、「野津田の自慢はなんだんべえ、石阪昌孝あった事（出した事）…」という唄が現在に伝えられており、地域の誇りとして人々の記憶に留められている。

墓は石阪昌孝本人の遺言により野津田に造られ、現在まで野津田青年会「凌霜会」や野津田町町内会により維持管理されてきた。近代立憲政治の基礎をつくるうえで重要な役割を果たした自由民権運動の地域指導者で、明治期に政治運動で全財産を使い果たした井戸堀政治家の典型ともいえる石阪昌孝の果たした歴史的役割、また多摩地域や旧神奈川県域の自由民権運動の実像を考えるうえでも象徴的な場所といえる。また、地域に長く愛された石阪昌孝ゆかりの地でもあり、町田市登録旧跡にふさわしいと思われる。